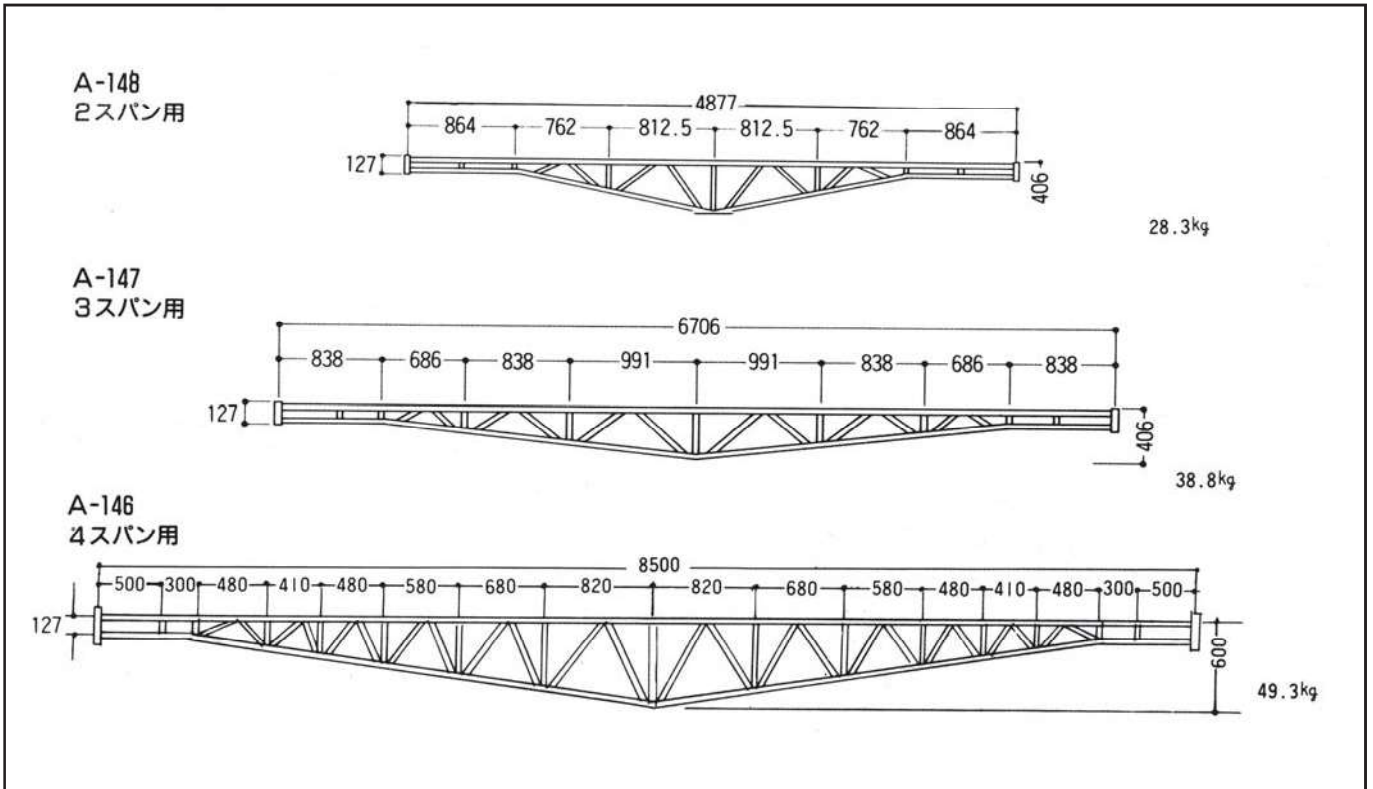
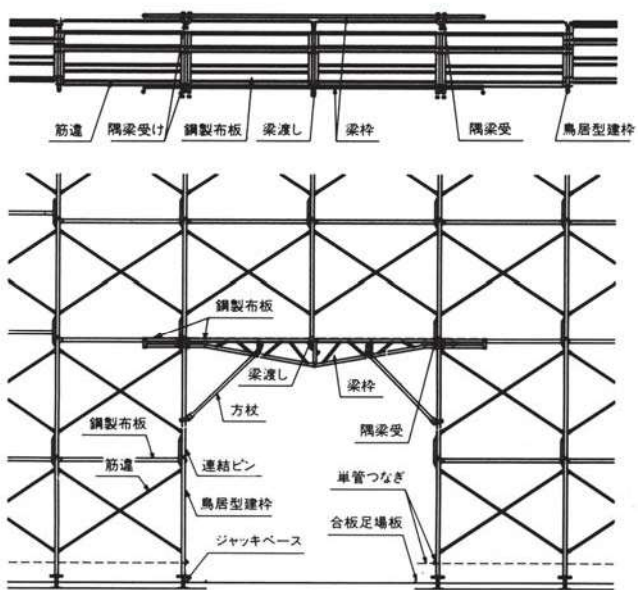


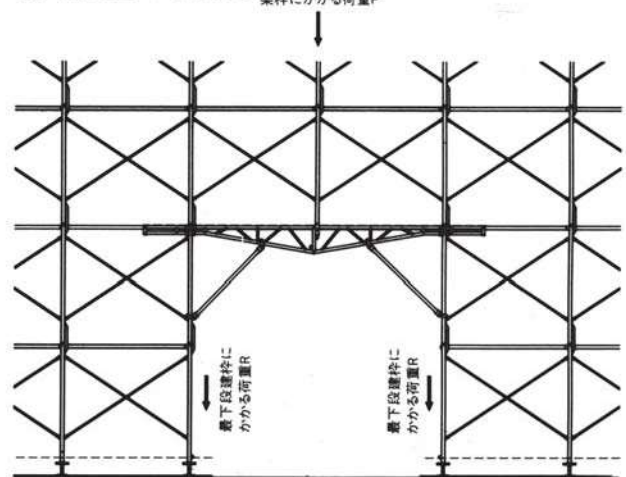
梁柱



〔梁柱取付部足場構成図〕



〔許容荷重の考え方〕



梁枠取付部足場構成図

品名	梁渡	品番	L寸法(mm)	重量(kg)	適用枠
		A150	1,219	10.2	A4055B
		A151	762	6.1	A2617SN
		A152	914	6.5	A3055A
		A153	610	5.6	A6117SN
		A154	410	4.2	A4117S

品名	方杖	品番	A寸法(mm)	B寸法(mm)	重量	
		A1475	1,410	1,524	5.7kg	2スパン用
		A1471	2,020	2,134	7.3kg	3・4スパン用

品名	隅梁受	品番	A1453	重量3.3kg

梁枠上段数早見表(2層目に梁枠を設置の場合)

梁枠開口 \ 枠巾	W=610	W=914	W=1219
2スパン	45段	47段	43段
3スパン	34段	35段	32段
4スパン	27段	28段	26段

(先行手摺等の荷重は含まれていません)

梁枠を使用する開口部の強度計算

社団法人 仮設工業会発行 仮設機材マンスリー No 141(6月号)より抜粋
梁枠で支持された枠組足場の安全確保について 厚生労働省安全研究所 建設安全研究部

まとめ

- (1) 梁枠上に組み立てられた枠組足場の全積載荷重は 1000(kg)以下とする。
- (2) 梁枠上に組み立てられた枠組足場の自重(付帯設備を含む)は積載荷重に含めない。
- (3) 梁枠を支持する建枠 2 枚には、梁枠上の全荷重(自重+積載荷重)の 1.05 倍の荷重が作用するものとする
- (4) 梁枠は、強度検討する必要が無い。
- (5) 留意事項
 - ・ 梁枠上の枠組足場の交差筋違いは絶対に取り外さない
 - ・ 梁枠上の枠組足場の各層には、建枠幅いっぱい床付き布枠を設けこれを絶対に取り外さない。
 - ・ 梁枠面は水平筋違い等により水平構を構成する。
 - ・ 補強として方杖材等で梁枠を支持しても強度増加にはならない。
 - ・ 梁枠を支持する建枠には、必ず壁つなぎ又は控えを設ける。

※ 解釈例・注釈

- A (1)梁枠上に組み立てられた枠組足場の積載荷重の扱い
梁枠の強度は、認定基準(仮設工業会)により、2 スパン用で中央集中荷重 1600(kg)以上 3 スパン用で 2 点集中荷重 2000(kg)以上及び 4 スパン用で 3 点集中荷重 2000(kg)以上が要求されている。また、梁枠への積載荷重が分散されて積載されるとし、裁定安全率 2 を採り、積載荷重 1000(kg)以下に設定する(梁枠 1 枚当たり)
- B (2)梁枠上に組み立てられた枠組足場の自重扱い
梁枠上に組み立てられた枠組足場は建枠・交差筋違い・床付布枠で構成された一種のトラス梁と考えられるため、梁枠上の枠組足場の自重はそれ自身が受け持つ事ができる。
また荷重試験の結果から枠組足場自身に十分な支持能力が有るため、自重には枠組足場の墜落防止設備(手摺等)の重量を考慮する事ができる。
- C (3)梁枠を支持する建枠の支持力の検討について
梁枠を支持する建枠には、通常現場で使用される枠組足場の総数が 4 層以上である事に鑑み、実験結果(荷重試験)を考慮し、梁枠上の全荷重の 1.05 倍の荷重が作用するものとして検討する。
- D (4)梁枠の強度検討について
梁枠を使用した枠組足場は、梁枠が曲げ破壊する以前に梁枠上の枠組足場が破壊する事で強度が決まるため、梁枠自身の強度検討をする必要はない。